

令和5年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
管理機関名 東京都教育委員会
代表者名 教育庁 浜 佳葉子

令和4年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和4年 4月 1日(契約締結日)～ 令和5年 3月31日

2 指定校名・類型

学校名 東京都立八丈高等学校
学校長名 佐藤 俊一
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

八丈やろごんプロジェクト

4 研究開発概要

【研究開発目標】

「八丈島を支える人材を地域とともに育てる」

【グランドデザインに基づいた育成すべき生徒の将来像】

- 目標の実現のために、自主的・主体的に学び続け、自分で道を切り拓ける人物
- 社会の変化に対応できる広い視野をもち、率先して動く自立した人物
- 地域、歴史、自然、産業、伝統文化に対する深い理解をもち、誇りに思える人物

【八文学I(1年次)】

1学期に八丈島の自然、歴史、文化、産業に関するレクチャー・フィールドワークを通して、八丈島に関する理解を深めるとともに、島の価値や課題を見出させるために、探究のサイクルを用いて探究の基礎学習を行う。また2学期にフェノロジーカレンダーの作成を通して、八丈島の地域課題に気づかせる取組を実施する。

3学期には、作成したフェノロジーカレンダーを活用して、島内小中学校及び八丈島に来島

した学校への成果発表、島外への訪問発表、オンラインによる都内小中学校への生徒による発表活動及び都内高等学校との交流を行う。年間を通して地域と向き合い、自己理解や地域の特性・課題に気づく力を育成する。

【八丈学Ⅱ（2年次）】

令和3年度に開講する八丈学Ⅱでは、地域の実態を踏まえたより現実的な探究学習を行い、解決策の提案を行う島民会議を実施する。1学期には、1年次に行った八丈島に関する基礎的な学びを基に、学びを深めるとともに、生徒の主権者意識を高めさせる工夫を行う。2学期には、他県のまちづくりシンポジウム等を参考に地域と学校が一体となって、八丈島の未来について考え、地域課題の解決策の提案の場として「島民会議」を開催する。2学期後半から3学期にかけて、島民会議で出された課題を基に個別研究の実験やフィールドワークを行い、課題の実証や実現の可能性を検証する。地域課題の解決を図ることを通じて、自己の生き方や島の未来を考えることで、課題発見・解決能力や将来設計能力を育成する。

【八丈学Ⅲ（3年次）】

令和4年度に開講する八丈学Ⅲでは、地域を活性化させ、島内外に八丈島の魅力を発信するための実践的な力を身に付けさせ、持続可能で、実現可能な行動計画を立て実践する。1・2学期を通じて、観光甲子園や田舎力甲子園などのコンテストに応募し、具体的な行動計画を発信する。年間を通して、課題を解決するための実践力を養い、自己実現のための具体的な行動と地域の将来のための具体策を発表することにより、地域探究学習の成果を広く伝える力を育成する。

これら3年間の研究開発の結果、研究開発目標及びグランドデザインに基づいた育成すべき生徒の将来像の素地を確実に身に付けさせることを指定期間終了時のゴールとする。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
茂手木 清	八丈町教育委員会・教育長職務代理人	学校教育に専門的知識を有する者
林 薫	八丈町教育委員会・臨時職員	学校教育に専門的知識を有する者
大沢 力	製菓やたけ・社長	地域産業界関係者
長田 隆弘	長田商店・社長	地域産業界関係者

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
東京都教育委員会	浜 佳葉子（教育長）
八丈支庁	池野 大介（支庁長）
教育庁八丈出張所	永田 史子（副所長）
東京都立八丈高等学校	佐藤 俊一（校長）
八丈町役場	山下 奉也（町長）
八丈町教育委員会	佐藤 誠（教育長）
八丈島観光協会	田村 真吾（事務局長）
八丈町商工会	間仁田 聡（会長）
八丈島空港ターミナルビル株式会社	吉田 倫久（代表取締役専務）
東海汽船株式会社	山崎 潤一（社長）
東京都立大学総合研究推進機構	柴田 徹（URA・産学連携専門部長）
文教大学地域連携センター	野島 正也（学長）
八丈ビジターセンター	高須 英之（センター長）
フェノロジーカレンダー研究会事務局	田島 幸郎
八丈太鼓よされ会	奥山 善男
八丈島エコツアーガイド協会	大類 由里子
八丈島移住定住促進協議会	内山 江差夫

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	増渕 達夫	帝京大学教育学部教育文化学科教授	委嘱
地域協働学習支援員	佐治 渉	八丈町役場企画財政課	委嘱
地域協働学習支援員	大類 由里子	八丈島エコツアーガイド協会・副代表	委嘱
地域協働学習支援員	大澤 萌	あいがえ企画・代表	委嘱

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①学校視察 学校訪問								5日 ★	21日 ★			
②運営指導 委員会出席 (オンライン)	15日 ★			25日 ★		26日 ★	7日 ★	10日 ★		20日 ★		2日 ★

③定例会 (オンライン)	20日 ★					29日 ★		16日 ★	13日 ★	24日 ★		
④コンソーシ アム協議会 出席 (オンライン)	27日 ★							25日 ★			3日 ★	

(2) 実績の説明

① 学校視察・学校訪問

[内容]

校内体制の構築、島民会議検証、PTA への地域協働への地域協働事業への協力についてについて指導・助言を行った。

[成果]

担当教員から直接、学校や研究の状況を把握し、適切に指導・助言を行った。
PTA から地域協働事業への理解が得られた。

② 運営指導委員会 (オンライン参加 7回)

[内容]

運営指導委員とともに、校内体制の構築、発表資料作成、島民会議実施方法、島外学校との連携について指導・助言を行った。

[成果]

担当教員・運営指導委員から直接学校や研究の状況を把握し、適切に指導・助言を行った。

③ 定例会出席(オンライン参加5回)

[内容]

校内体制の構築、発表資料作成、島民会議実施方法、島外学校との連携について指導・助言を行った。

[成果]

佐藤俊一校長から直接学校や研究の状況を把握し、適切に指導・助言を行った。

④ コンソーシアム協議会(オンライン参加3回)

[内容]

島民会議実施方法、振り返り、次年度へ向けて指導・助言を行った。

[成果]

担当教員、地域協働学習実施支援員、コンソーシアムから研究の状況を把握し、適切に指導・助言を行った。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【八丈学Ⅰ】 八丈島の自然、歴史、文化、 産業等地域課題学習	➡											
【八丈学Ⅰ】 フェノロジーカレンダーの制作を 通じた探究学習				➡								
【八丈学Ⅰ】 企業調査を通じた探究学習								➡				
【八丈学Ⅰ】 探究学習を基にした 発表活動										➡		
【八丈学Ⅱ】 島民会議での八丈島の社会課 題に対する、政策提言に向け ての探究学習	➡											
【八丈学Ⅱ】 島民会議での意見交換に向け ての事前準備、事後整理			➡									
【八丈学Ⅱ】 八丈島を発信するための実践活 動の事前準備										➡		
【八丈学Ⅲ】 八丈島を発信するための実践活 動を通じた探究学習	➡											
【八丈学Ⅲ】 3年間の探究学習n経験を基に した、後輩への指導、助言									➡			
【他校普及活動】 東京都の他校への探究 活動の普及活動を実施												

(2) 実績の説明

① 八丈島の自然、歴史、文化、産業等の地域課題学習

〔内容〕

地域人材の活用により、八丈島の自然、歴史、文化、伝統、産業等を学び、島の価値や魅力について知る学習を実施した。

・八丈町教育委員会 茂手木 清氏 林 薫 氏（7月12日 八丈方言について）

〔成果〕

八丈島の自然、歴史、文化、伝統、産業について学び、価値について再確認した。

② フェノロジーカレンダーの制作を通じた探究学習

〔内容〕

島の価値や魅力についての学習を基に、八丈島のイベント、動植物、草花、野菜、海産

物等の項目ごとに実施月や収穫の時期など季節ごとに分類・整理し、季節の暦カレンダーであるフェノロジーカレンダーを制作した。

- ・文教大学 海津ゆりえ 教授（6月16日、11月18日）
- ・株式会社 アートポスト 滝口貴美子 氏（6月16日、11月18日、11月29日、12月19日、2月10日、3月16日）

〔成果〕

調査した内容を整理、まとめることにより、島の価値について気づき、深めることができた。

③ 企業調査を通じた探究学習

〔内容〕

島の各職業の1年間の流れをフェノロジーカレンダーと比較することにより、自然と人の関係性について理解する。

- ・12月19日 地域企業（めゆ工房、八丈ビジターセンター、長田商店、八丈町給食センター）

〔成果〕

八丈島のさまざまな職業と八丈島の自然との関わりについて気づき、フェノロジーカレンダー制作に生かすことができた。

④ 探究活動を基にした発表活動

〔内容〕

フェノロジーカレンダーについて発表活動を実施した。

- ・1月27日 1年生の発表に対する、2年生からの指導・助言
- ・3月17日 都立立川高等学校とのオンライン成果発表交流会
- ・3月18日 多摩・島しょサミットにおいて成果発表会

〔成果〕

成果を伝えることができ、探究活動の課題等をさらに気づくことができた。

⑤ 島民会議での八丈島の社会課題等に対する、政策提言に向けての探究学習

〔内容〕

島民会議に向けて、八丈島の地域課題及びその解決策について、探究活動を実施した。

- ・コンソーシアムによる生徒への指導・助言（随時）
- ・地域へのフィールドワーク（随時）

〔成果〕

八丈島の社会課題等に気づき、解決策を深めることができた。また、主権者意識を育むことができた。

⑥ 島民会議での意見交換に向けての事前準備、事後整理

〔内容〕

島民会議に向けての事前・事後指導を行った。

- ・10月7日 プレ島民会議(島内コンソーシアムによる指導・助言)
- ・11月25日 第8回コンソーシアム協議会(島内コンソーシアムによる指導・助言)

- ・12月21日 午前：島民会議、
午後：島民会議振り返り（生徒による振り返り、及び文部科学省、
東京都教育庁、カリキュラム開発等専門家による指導助言）

〔成果〕

成果を伝えることができ、探究活動の課題等をさらに気づくことができた。

⑦ 八丈島を発信するための実践活動の事前準備（プレ個人探求）

〔内容〕

八文学Ⅲに向けて、八丈島を発信するための実践活動の探究課題を設定した。

〔成果〕

多くの分野に視野が広がり、探究活動だけではなく、進路活動にも関連付け、将来設計能力を育むことができた。

⑧ 八丈島を発信するための実践活動を通じた探究学習（個人探求）

〔内容〕

自らの将来や進路に関連した、八丈島に関する個人課題探究を設定し探究活動を実施した。

〔成果〕

- ・7月19日 普通科・併合科合同中間発表会
- ・11月25日 八文学Ⅲ成果発表会（島内コンソーシアムによる指導・助言）

⑨ 3年間の探究学習の経験を基にした後輩への指導・助言

〔内容〕

探究活動の経験をもとに、1学年・2学年の生徒に対して、指導・助言を行った。

〔成果〕

- ・7月14日 八文学Ⅱ（島民会議）中間発表指導・助言
- ・12月20日 八文学Ⅱ（島民会議）事前発表練習
- ・12月21日 島民会議補助（記録、設営等）
- ・1月20日、27日 八文学Ⅱプレ個人探究指導

⑩ 東京都探究フォーラム

〔内容〕

探究活動の成果の普及を図るため、ポスター発表を実施した。

〔成果〕

東京都の他校との交流が深まり、本校の活動成果を普及することができた。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

管理機関、カリキュラム開発等専門家及び島内コンソーシアムと連携を図りながら、教務部及び授業担当者のメンバーが検証を行い、PDCAサイクルに基づいて改善を進めた。

(1) 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

- ① 卒業時に生徒が修得すべき具体的能力の定着状況
 - a 全校アンケートの「島に戻って仕事をしたい」と考える生徒を増やす。
3年次目標 80%、3年次実績 47% (高校魅力化評価システムアンケートより)
- ② 高校卒業後の地元への定着状況
 - b 卒業生に対する卒業後2年目のアンケートにおいて、島への就職を視野に入れている者を増やす。
3年次目標 80%、3年次実績 調査未実施
- ③ その他本構想における取組の達成目標
 - c 八丈町立中学校からの都立八丈高等学校への進学率を上げる。
3年次目標 95%、3年次実績 75% (2月末日時点)
- (2) 地域人材を育成する高校としての活動指標 (アウトプット)
 - ① 地域課題研究又は発展的な実践の実施状況
 - a 地域開発に関するコンテスト受賞数
3年次目標 2、3年次実績 0、
 - ② 普及・促進に向けた取組の実施状況
管理機関での発表 2回、地域での広報誌掲載 14回、HP更新回数 9回
Twitter更新回数 84回
 - ③ 島外学習での学校訪問数・テレビ会議を利用した交流の回数
3年次目標 16回、3年次実績 5回 (1回の交流規模を大きくしたため)
 - ④ その他本構想における取組の達成目標
 - b フェノロジーカレンダー設置場所
3年次目標 30か所、3年次は20か所設置予定
- (3) 地域人材を育成する地域としての活動指標 (アウトプット)
 - ① 地域人材を育成する地域としての活動の推進状況
 - a 全校アンケート調査にある「島を盛り上げていきたい」と答える生徒を増やす。
初年度実績 45%、2年次実績 64%、3年次実績 62%
(高校魅力化評価システムアンケート結果より)
 - ② その他本構想における取組の達成目標
 - b 全島民会議の参加者数の増加
3年次目標 350、3年次実績 200 (新型コロナウイルス感染症の予防と拡大防止のため人数制限したため)

<添付資料> 目標設定シート

1.2 次年度以降の課題及び改善点

[課題]

- ① 教職員全体の地域協働に対する理解は深まってきたが、未だ共通理解・共通認識が不足している。
- ② コンソーシアムについて、本事業への関わりに温度差があった。
- ③ 探究活動について、フィールドワークの実施回数が少なかった。
- ④ 令和5年度以降の地域協働事業の持続可能な財源の確保ができなかった。
- ⑤ 地域と協働した探究学習の継続性のある組織体制を確立できなかった。

〔改善点〕

- ① 教職員への研究を学期に1回実施する。
- ② コンソーシアムの精査と、PTA等保護者の参加を促す。
- ③ フィールドワークの回数の増加や、課外活動等を利用する。
- ④ 地域との円滑な関係を築く。また、地域協働学習実施支援員を中心とした、地域団体を設立する。
- ⑤ 校内の組織に地域を協働した探究学習の担当者を増加する。また、校務内容を精査する。

【担当者】

担当課	教育庁指導部高等学校教育指導課	TEL	03-5320-6845
氏名	天野 大輔	FAX	03-5388-1733
職名	統括指導主事	e-mail	S9000023@section.metro.tokyo.jp